事例29　　内容項目「郷土愛」

ふるさとに親しみ、心豊かに生きる生徒の育成

道徳　第２学年
七尾市立能登島中学校・教諭

１　事例の概要

自然豊かな能登島は、人間と自然がうまく調和した営みが多く見られる。生徒には、そんな自然とともに生きる人々の生きざまにふれ、ともに生きることの大切さを理解し、そうした生きかたに共感してほしいと願っている。そのため、地域の人材に積極的に参加していただき、保護者や地域の人々の道徳教育への理解を深め、協力を促すことによってより豊かに生きようとする心を育み、共に高め合おうとする学校づくりをめざし、家庭や地域社会との連携を深くし開かれた道徳教育を展開してきた。

Ａ－１　学校研究

２　実践内容

(1)　目標

家庭や地域社会との連携を深くし開かれた道徳教育を展開する中で、ふるさとの良さに気づき、共に伸びようとする広い心を育む。

(2)　指導上の工夫

① 指導法の工夫

ＴＴ授業の形態をとり、個に応じた支援に心掛けている。生徒一人ひとりの考え方を大切にしながら進めることができるＴＴ授業は、教師にとっては個を生かそうとする姿勢が身につき、生徒にとっても自己有用感や自己存在感をもつことができ、積極的に授業に参加しようとする姿勢が身につく。

また、授業の後半で地域の方々にゲストティーチャーとして参加していただいている。これにより、主題が身近に感じられ、これからどう生きていくか、いかに実践していけるかを考えやすくなる。余韻を残したまま授業を効果的に締めくくることもできる。

② 評価の工夫

ワークシートや心のノートを活用しながら、生徒自らが自己の変容を感じ自己評価できるようにしている。具体的には、授業のはじめに、資料にふれてまず感じたことを記入する。授業の終末では、主人公の生き方を通して感じたことをまとめる。そこに書かれた内容から生徒は、自己の変容を感じとるのである。そのワークシートは、教師が授業後読み返すことで一人ひとりの評価と支援に生かされるものとなる。

Ｂ－１　指導法の工夫

３　指導の実際

学習活動	発問等と生徒の反応など	Ｔ１の動き	Ｔ２の動き	配慮事項
石原さんの気持ちを考える。	◎石原さんは、どんな気持ちでお礼の手紙を書いたのだろう。 ・ふるさとに感謝したい。	状況が理解できない生徒を支援する。	状況が理解できない生徒を支援する。	・生徒一人一人の思いを大切にしたい。 ○郷土を愛する気持ちが理解できたか。

郷土に対する思いを聞く。 心のノートに自分の思いを書く。	○ゲストティーチャーが能登島に対する思いを話す。 ・地域の活性化やＰＲのためいろんなことをやっているな。 ○「ふるさとに自分ができることはなんだろうか」をまとめよう。	感想を話しまとめる。	似顔絵を提示する。 生徒の様子を観察する。	

Ｃ－１　指導案

4　成果と課題

(1)　生徒の変容

道徳教育を通じて、地域の人々の生きざまにふれ、そうした生きかたに共感する機会が増えた。それによって生徒は、地域を見直し「ふるさと」の良さにふれ、先輩の話を聞きながら自らの将来を見つめ直すことができた。地域の方々からも「祭りなどの地域行事に率先して参加している。」「朝元気よく笑顔であいさつするようになった。」などお褒めの言葉をいただいている。 今後は、命を軽んずるような事件が続く中、「命の尊重」を主題とした道徳授業を展開していきたいと考えている。

(2)　指導法の工夫

ＴＴ授業を行い、それぞれの教師が個性や専門性を発揮し、授業の活性化をはかることができた。そのため、生徒が自らの生き方をみつめることに対して、違和感や恥じらいを持つことが少しずつ減ってきた。自分の考えをワークシートに記入したり発表したりすることに抵抗感はなくなってきているようだ。学級差はあるものの確実に前進している。真摯に主題を受け止め素直に感動したり自らの生き方をふり返ったりしている。

また、ＴＴ授業ということで生徒理解や授業における声かけや見とりがしやすくなった。生徒一人ひとりを大切にする雰囲気が学校全体に広がっているものと感じられる。

ただ、事前の打ち合わせや事後のふり返りに時間があまりとれず、効果的にＴＴ授業がなされない場合もある。この点は、空き時間をうまく活用しクリアしたい。

(3)　評価の工夫

道徳教育の特殊性から、教科指導のような評価は、むずかしい。本校では、評価を支援のためのステップと考えている。

① 評価の観点

道徳的心情（考え方や感じ方）、道徳的判断力（判断力）、道徳的実践・意欲・態度（行動）、道徳的習慣（身に付けさせたい習慣）の４つを掲げながら学校教育全体を通して、あるいは家庭地域との連携を通して、評価しようとしている。これから、「望ましい」とする道徳的価値そのものが妥当なのかどうかをも考え直しながら、研究を進めていきたいものである。

② 評価の方法

観察・面接・質問紙（保護者も交えた自己評価）・作文、ノートなどを活用しようとしているが、広範囲な実践の積み上げとはならなかった。ただ、ワークシートの活用を通して、生徒自身が自己の変容に気づいたり、教師が後で生徒の活動をふりかえったりすることはできた。

③ 評価の姿勢

「相手の立場を理解しようとする態度」「どんな考え方に対しても批判的にならない受容的態度」などで接し、生徒が自由に発言し共感できる環境づくりに努めている。その上で、個に応じて支援できるような手だてを模索中である。